
願おうよ、泉。

伊東 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

願おうよ、泉。

【Nコード】

N 3 4 4 5 E

【作者名】

伊東 光

【あらすじ】

二人の若者がある日、泉の精霊に出会い……。。

あるところに、ジャックという名の何でも欲しがる若者とケインという名の、あまり多くを望まない若者がいました。

奇妙なことに、その二人は大の仲良しです。毎日、森の中の泉のそばに立つ大樹の枝に上って、夜遅くまで、一緒にいろいろな事を語り合います。恋愛について、スポーツについて、学問について、政治について、自分たちの将来について。彼らの語り合いは、知識で大人に劣っていたかもしれませんが、ですが、若さからあふれる情熱が在りました。

だから、でしょうか。ある日、いつもの様に二人で語り合っていると、不思議なことが起こりました。なんと、泉の中から、（お世辞にも綺麗とは言いがたい）女の人が浮かび上がってきたのです。彼女は言いました、

「私は、この泉の精霊です。あなた達の会話は毎日聞こえていましたよ。おもしろかったわ」

ジャックは思います。勝手に自分たちの話を聞くなんて、いけ好かないヤツだ、と。

ケインも思います。あー、面倒くさいなあ、早くこの女の人どっかに行ってくれないかなあ。ジャックと話の続きがしたいな、と泉の精霊は話続けます。

「あなた達の会話は、いい暇つぶしになりました。そこで、お礼にあなた達の望むものを一つ叶えて差し上げましょう」

ジャックは思います。ラッキー、なんて願おうかな、と。

ケインも思います。毎日聞いてたのかよ。あんた、どんだけ暇人なんだよ、と。

「では、ジャック。あなたは何を望みますか？」

ジャックは思います。願い事を増やせ、という願い事は多分ダメなんだろなあ、と。

ジャックは心に嘘をついて、言いました。

「俺がもって無いものをよこせ」

ジャックの願いどおり、彼は、何でも欲しがるのを自重する謙虚さを、手に入れました。

「さあ、ケイン。次はあなたの番ですよ」

ケインも思いました。願いなんて格段持ち合わせていないなあ、と。

ケインは正直に、言いました。

「なんにももらないよ」

ケインの願いどおり、世界は消えてなくなりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3445e/>

願おうよ、泉。

2010年10月28日03時13分発行